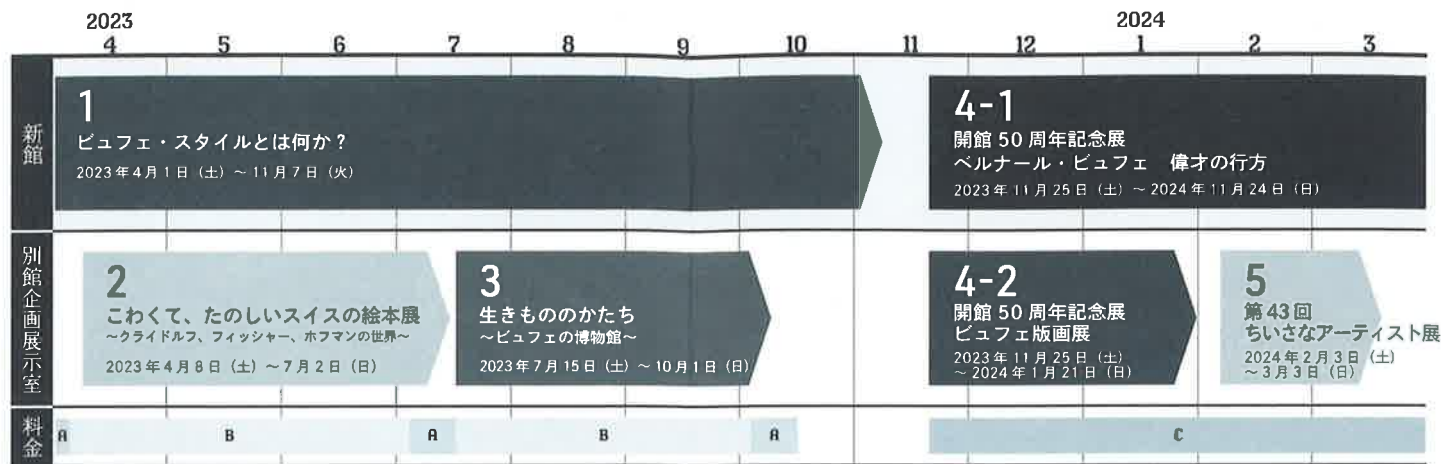


ベルナール・ビュフェ美術館 展覧会スケジュール 2023-24



※入館料は企画展開催時は異なります

入館料	料金タイプ	A	B	C
	期間	4/1～4/7、7/3～7/14、10/2～11/7	4/8～7/2、7/15～10/1	11/25～2024年11/24
	大人	1,000円 (900円)	1,200円 (1,100円)	1,500円 (1,400円)
高校生	500円 (400円)	600円 (500円)	750円 (650円)	

※2023年5月3日(水)、4日(木)、5日(金)は開催 ※2024年1月2日(火)、3日(水)、4日(木)は年始特別開館

※中学生以下の入館料は無料です。
 ※()内は20名様以上の団体割引料金です。
 ※学生の方は学生証等をご提示ください。
 ※障害者手帳ご持参の方は半額となります。
 ※7月10日はベルナール・ビュフェの生誕記念日につき無料で入館いただけます。

1 | “ビュフェ・スタイル”とは何か?

2023年4月1日(土)～11月7日(火)

灰色と栗色の画面、黒く鋭い輪郭線、画面を埋め尽くすひっかき傷のような線、顔に深いしわをきざんだ細く長い人物、不思議な配置の静物、人っ子一人いない町…ベルナール・ビュフェの絵のスタイルは、一度見たら忘れられない独特の輝きを放っています。20歳という若さで確立されたそのスタイルは、ビュフェという画家を唯一無二の存在にしました。その後50年にわたる画業の中で、線の描き方や使う色、描く対象は広がっていきませんが、何をどう描こうと、隠しようもない「ビュフェ・スタイル」は貫かれたままでした。この展覧会では、初期から晩期までの作品を通してビュフェの絵画の「スタイル」を徹底的に味わいます。



《テーブル、食器》1984年 油彩

開館 50周年記念展

「ひとりの天才の才能を通じ、この大地に文化の花咲くことをのぞむ」と1973年に創設された当館は、今年開館50周年を迎えます。創設者にとって第二次大戦後の虚無感と無気力さの中に一筋の光芒を与えてくれたのがビュフェの作品でした。独自の感受性と表現力をもった年若き偉才の擒となった創設者はビュフェ作品の収集に情熱を注ぎ、そのコレクションは油彩、版画など約2000点に成長しました。開館50周年を記念する本展では、初期から晩年まで、ビュフェ芸術の全貌を視野にいれ、偉才の画業の旅路をたどります。



《自画像》1958年 油彩



《道》1962年 リトグラフ

4-1 | 開館 50周年記念展 ベルナール・ビュフェ 偉才の行方

2023年11月25日(土)～2024年11月24日(日)

ベルナール・ビュフェは、黒い輪郭線とモノトーンに近い色彩がきわだつスタイルを確立し、1940年代後半のフランスで絶大な名声を獲得しました。しかし抽象絵画が主流となる60年代にはいと、ビュフェの具象絵画はもはや時流に逆行するものと見られ、彼の評価は称賛から非難へと急転しました。こうした状況は21世紀になって再び変化し、パリで大規模な回顧展が開催されるなど、現在は「ビュフェ・リバイバルの時代」となっています。開館50周年を記念する本展では、1940年代から最晩年にいたる作品70余点を通して、20世紀屈指の偉才といわれたビュフェの真価を問い直します。

4-2 | 開館 50周年記念展 ビュフェ版画展

2023年11月25日(土)～2024年1月21日(日)

油彩だけでなく、すぐれた版画作品も制作した画家を、フランスでは“Peintre-graveur パントル・グラヴール(画家にして版画家)”と呼びます。ピカソ、マティス、シャガールといった20世紀を代表する画家の多くがそうであったように、ビュフェも版画作品を多く制作した“パントル・グラヴール”でした。「線の画家」ともいわれるビュフェの表現が発揮されるドライポイント、そして、のびのびと楽しんでいるようなリトグラフによる版画作品をお楽しみいただけます。

2 | こわくて、たのしいスイスの絵本展 ～クライドルフ、フィッシャー、ホフマンの世界～

2023年4月8日(土)～7月2日(日)

スイスを代表する絵本画家3名を紹介します。アルプスの草花を擬人化した『花のメルヘン』など、ヨーロッパにおける絵本画家の先駆けであるエルンスト・クライドルフ、勢いのある線を重ねて描き『プレーメンのおんがくたい』や『こねこのびっち』などで知られるハンス・フィッシャー、『おおかみと七ひきのこやぎ』が日本でも長く愛され、『スイスの伝説』などユーモア溢れる挿絵でも知られるフェリックス・ホフマン。長野県の小さな絵本美術館の所蔵品から原画やリトグラフ、手描き絵本など約100点を紹介します。



『おおかみと七ひきのこやぎ』より
©フェリックス・ホフマン 1957年

3 | 大人も子どもも楽しめる 生きもののかたち ～ビュフェの博物館～

2023年7月15日(土)～10月1日(日)

子どもの頃から虫が好きで、学校では博物学に興味をもっていたというビュフェ。1964年の個展のテーマを「ベルナール・ビュフェの博物館」としたように、昆虫をはじめ、生きもののかたちを多く描きました。本展ではビュフェが描いた作品とあわせて、ふじのくに地球環境史ミュージアム(静岡市)との共催で、昆虫標本や剥製などの自然史標本を展示します。ビュフェが惹かれたであろう生きもののかたちのおもしろさや美しさを、そして、ビュフェの表現の魅力をあらためて発見する「ビュフェの博物館」です。



《赤い昆虫》1963年 油彩



《小さいミミズク》1963年 油彩

ビュフェ こども美術館 美術と出会うきっかけの場

別館1階のビュフェこども美術館は、こどもと美術が出会いきっかけづくりの場。五感を使って楽しみながら美術作品に親しむことができます。



カフェ&ショップ TREEHOUSE

美術館の開館時に植樹され、大きく成長したシンボルツリーのクスノキに寄り添うように建つカフェ&ショップTREEHOUSE。ショップでは美術館のオリジナルグッズや美術書をはじめ、子育て世代向けの雑貨や書籍も取り揃えています。



開館時間		休館日
3～10月	10:00～17:00	水・木曜日
11～2月	10:00～16:30	・祝休日の場合は開館し、翌金曜を休館 ・11月8日～24日は展示替えの為休館
※ご入館は開館の30分前まで		

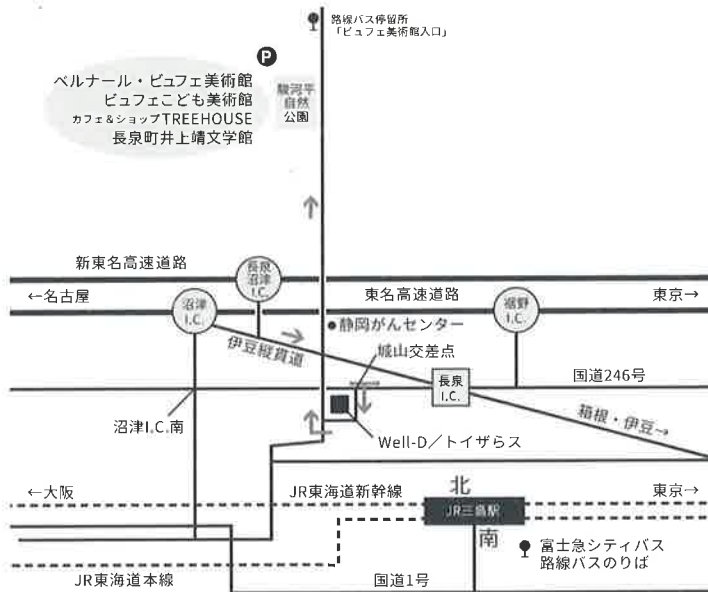
5 | 第43回 ちいさなアーティスト展

2024年2月3日(土)～3月3日(日)

地域の文化発展を願い、静岡県内の幼児から中学生までを対象に、1981年から開催している「絵画展」は43回目を迎えます。「夏休みの思い出」をテーマに募集した作品の中から、入賞・入選作品を一堂に展示します。



第42回絵画展 幼児の部金賞作品



ベルナール・ビュフェ美術館

〒411-0931 静岡県駿東郡長泉町東野クレマチスの丘 515-57
Tel. 055-986-1300 Fax. 055-987-5511 www.clematis-no-oka.co.jp/buffet-museum/

開館50周年

ベルナール・ビュフェ美術館



展覧会スケジュール

2023-24

